

第5学年 国語

1 結果の分析

(1) 結果の概要

- ◇4つの領域ともに、全体の平均は都の平均をおおむね上回っており、70%以上の正答率である。
- ◇話す・聞く能力については、都の平均を7ポイント以上上回っている。
- ◇正答数分布では、正答率が70%以上の児童が全体の約6割を占めている。一方、正答率が50%以下の児童も約2割おり、個別の支援が必要である。

(2) 結果から明らかになった課題

個別の状況(課題)	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の中で、登場人物の言葉の理由を読み取る問題の正答率が51%であった。 ・手紙を書く際の後付けの書き方を問う問題の正答率が44%であった。 ・修飾と被修飾との関係について理解を問う問題の正答率が47%であった。また、主語と述語についての理解を問う問題の正答率が、51%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> →問われている事柄を理解し、文章を正しく読み取る力に課題がある。 →手紙などの文章の書き方、書き方のきまりなどの理解に課題がある。 →言語についての知識・理解・技能の中でも、基本的な国語の文法、文の構造についての理解に課題がある。

2 改善策

(1) 具体的な改善策

- ・物語文や説明文を学習する際には、登場人物の心情や筆者の主張を、叙述を根拠に正しく読み取ることができるように、学習シートを工夫したり、発問を精選したりして指導する。また、読書を推進し、普段から文章に触れるように声を掛けていく。
- ・文章を書く指導の際に、文章の構成や書き方の約束事を意識しながら文章が書けるように指導する。また、日常的な学習の中で、なるべく多く文章を書くような機会を設ける。
- ・主語・述語などの関係性について確認する場面を設けたり、詳しくする言葉との関係性について指導したりしていく。言語についての学習をする時間に、知識の習得を行い、日頃から辞書を引く習慣を付けるなど、言葉に触れる機会を増やしていく。

(2) 改善策(手だて)に対する検証

- 東京ベーシックドリルを活用し、反復練習することで知識の定着を図り、毎回の単元のテストで平均正答率85%を指標として確認する。
- 国語の「書くこと」に関する単元では、事前の指導を丁寧に行い、構成まで考えた文章を丁寧に書くことができるようにする。学習後の振り返りで、肯定的回答をする児童が8割を超えるようにする。

第5学年 算 数

1 結果の分析

(1) 結果の概要

- ◇全ての観点で東京都の平均値を上回っている。
- ◇3領域においては、東京都の平均正答率から5.8～6.1ポイント上回っている。しかし、問題ごとに見ると、平均正答率が50%台を下回る問題もある。
- ◇角度を求める問題、円についての問題は、正答率が45%前後と低く、課題がある。

(2) 結果から明らかになった課題

個別の状況(課題)	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・分度器で示された角度を読み取る問題の正答率が45.7%、時計の長針が回転した角度を求める問題の正答率が47.8%であった。・比例関係にあたるものの式を答える問題の正答率が46.7%であった。・アンケート調査をまとめた表の結果を考察する問題の正答率が、48.9%であった。・辺や対角線の条件を基に、四角形の名称を答える問題の正答率が、47.8%であった。	<ul style="list-style-type: none">→数学的な考え方を問う問題で、比較・関連付けて読み取る力に課題がある。→数学的な考え方を問う問題で、比較・関連付けて読み取る力に課題がある。→数学的な考え方を問う問題で、情報を整理する力に課題がある。→数量や図形についての知識・理解に課題がある。

2 改善策

(1) 具体的な改善策

- ・数量や図形についての学習では、数学的活動を積極的に取り入れ、操作しながら知識と結び付けられるように指導していく。
- ・何が問われているのか、求めることは何か、課題把握を正確にし、根拠を基にして考えを述べるができるような学習展開をする。また、考えを比較・関連させながら統合的に捉えることができるよう指導していく。
- ・表やグラフを用いて、変化を捉えたり関係づけたりすることで、情報を整理する力をつけられるよう指導していく。

(2) 改善策(手だて)に対する検証

- 自力解決や集団検討場面で、児童が既習事項と関連付けて考えているか、根拠をもって考えることができているか、統合的・発展的に考えているかなどを見取り、確認する。
- 単元の終末では、習熟を図る時間を多く設け、確実に理解できるようにする。プレテストを必ず実施し、全員が理解してからワークテストを実施する。ワークテストの平均正答率85%を指標として確認する。
- 毎時間ノートを回収し、自分の考えや振り返りなどから児童の学習状況の把握に努める。
- 東京ベーシックドリルを使用して、習熟を図る。正答率85%を指標として確認する。

1 結果の分析

(1) 結果の概要

- ◇全体的に東京都の平均正答率を上回っている。
- ◇3領域においては、東京都の平均正答率から3.7～4.7ポイント上回っている。しかし、各問題で見ると平均正答率が50%台の問題もある。
- ◇自分たちが通う小学校がある区市町村の位置についての問題は、正答率が59.8%と低く、課題がある。

(2) 結果から明らかになった課題

個別の状況(課題)	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが通う小学校がある区市町村の位置を理解する問題の正答率が59.8%であった。 ・「東京都のごみ処理や資源の再利用」から「ごみと資源の流れ」の図からもっともふさわしい文章を選ぶ問題の正答率が57.6%であった。 ・「110番通報のしくみ」から通信司令センターの働きとして最もふさわしいものを選ぶ問題の正答率が52.2%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> →地図の読み取り、地図と地名を結び付けて考えることに課題がある。 →「ごみと資源の流れ」の図からごみ処理の流れで適切なものを選ぶことに課題がある。 →通信司令センターの働きの資料から読み取りでふさわしいものを選ぶことに課題がある。

2 改善策

(1) 具体的な改善策

- ・地名が出てきた時には、地図帳を活用し、その都度、地名と地図を結び付けて指導する。
- ・物事の事実だけでなく、その背景や根拠も押さえながら、物事の流れや仕組みを正しく理解できるようにするために図や表をノートに書くよう指導方法の改善を図る。
- ・課題に対して、複数の資料を提示し、資料からどのようなことが分かり、どのような共通点や相違点があるのかを明らかにし、ノートにまとめよう指導する。

(2) 改善策(手だて)に対する検証

- 単元の終末では、習熟を図る問題を用意する。プレテストを必ず実施し、全員が理解してからワークテストを実施する。ワークテストの平均正答率85%を指標として確認する。85%に達しない場合には、再度復習テストを行い、着実に理解できるようにする。
- 毎時間ノートを回収し、児童の学習状況の把握に努める。
- 東京ベーシックドリル「社会 発展」を繰り返し実施し、主要な国、島、山脈、河川、海洋、平野などの地名や位置を正しく理解できるようにする。地名や位置の正答率が85%に達しない場合には、再度復習テストを行い、着実に理解できるようにする。

第5学年 理科

1 結果の分析

(1) 結果の概要

- ◇「観察・実験の技能」が都の平均を1.0ポイント下回っている。
- ◇正答数分布では、正答率が70%以上の児童が全体の約5割を占めている。一方、正答率が50%以下の児童も約2割おり、個別の指導が必要である。

(2) 結果から明らかになった課題

個別の状況(課題)	解決すべき課題
・乾電池の直列つなぎについて理解する問題の正答率が27.2%であった。	→直列つなぎ、並列つなぎをする際の、正しいつなぎ方を理解していない。
・太陽の動きとかげのつき方、気温の変化に関する問題の正答率が32.6%であった。	→太陽の動きと気温の関係についての理解が定着してない。また、太陽は東から西に動くという基本的なことは理解していても、西側にいる場合の気温の変化はどうかなど、応用問題になると正しく解決できなくなる。
・安全に観察や実験を行うための約束に関する問題の正答率が33.7%であった。	→観察・実験の約束を正しく理解していない。
・水蒸気という言葉の理解に関する問題の正答率が40.2%であった。	→水の状態についての理解に課題がある。

2 改善策

(1) 具体的な改善策

- ・乾電池のつなぎ方を実際に経験する時間をさらに設けるようにする。また、実物と回路の図の関係をICTなどを活用して、視覚的に理解できるようにする。
- ・実験や観察の条件を毎回確認し、今どのような条件で実験・観察をしているのかを明確にする。そのために、板書や掲示物を工夫するなど、事前準備をしっかりと行う。
- ・理科室の使い方や安全に実験を行うための約束事を、繰り返し確認するようにする。そのために、理科支援員とも連携し、掲示物や表示にも分かりやすく表すようにする。
- ・学習したすぐ後には正しい知識を身に付けたとしても、時間が経つと忘れてしまう場合が多い。そのため、定期的に過去に行った学習内容を想起させ、練習問題など行い定着度を確かめていくようにする。

(2) 改善策(手だて)に対する検証

- 単元ごとのワークシートでは観察・実験の技能の平均正答率85%とする
- 復習において使用する東京ベーシックドリルの正答率85%を指標として確認する。